



Data

監督: アルフォンソ・ゴメス＝レホン

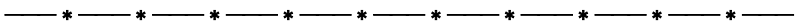
出演: ベネディクト・カンバーバッチ / トム・ホランド / マイケル・シャノン / ニコラス・ホルト / キャサリン・ウォーターストン / タペンス・ミドルトン / スタンリー・タウンゼント / マシュー・マクファディン

👁️👁️ みどころ

発明王トーマス・エジソンの名前は誰でも知っているが、直流と交流を説明できる人は少ないはず。ましてや、1880年代に勃発した電流戦争とは？

天才発明家の頭がいいのは当然だが、その反面、性格は嫌なヤツばかり？それは本作のエジソンやウェスティングハウスを見ての判断だが、発明には同時に投資や世渡りの才能が不可欠なことはよくわかる。

しかして、もしあの時、直流が交流に勝っていたら？それは「クレオパトラの鼻がもう少し低ければ」と考えるのと同じように無意味なことかもしれないが、それでも・・・？



■□■ 直流？交流？電流戦争とは？ ■□■

なぜスイッチを入れたら電灯は明るくなるの？それは電気（電流）が流れるからだが、それは直流？それとも交流？それがわかれば私は法学部には進まず、理科系に進学していたかもしれない。とにかく私は中学時代から物理、化学は苦手だった。そのため、1880年代にトーマス・エジソン（ベネディクト・カンバーバッチ）とジョージ・ウェスティングハウス（マイケル・シャノン）との間で繰り広げられた「電流戦争」の内容は、私にはまったく理解できない。パンフレットにある「電流戦争って？」では、それらについてわかりやすく解説してくれているが、それでもやっぱり私にはわからない。そうそう、それからもう一人、本作にはニコラ・テスラ（ニコラス・ホルト）という何となく聞き覚えのある男も登場し、電流戦争で大きな役割を！

■□■ 2人の天才発明家のキャラに注目！ ■□■

日本では、近時ノーベル賞の受賞が相次いでいる。例えば、①2012年には山中伸弥

氏が医学生理学賞を、②2014年には中村修二氏が物理学賞を、③2018年には本庶佑氏が医学生理学賞を、そして、④直近の2019年には吉野彰氏が化学賞を受賞している。そして一躍有名になると、はっきりしてくるのが彼ら天才学者のキャラクターだ。

本作冒頭、まだ世界が炎によって照らされていた1880年に、電気によって「夜を葬る」と宣言したのがエジソン。彼は1882年にニューヨークで自ら発明した電球を電気で光らせることに成功して、全世界の注目を浴びていた。ところが、ウェスティングハウスは、大量の発電機が必要なエジソンの“直流”送電方式よりも、発電機1基で遠くまで電気を送れる安価な“交流”方式の方が優れていると考えており、エジソンとも“交流”方式で一緒にやっていきたいと考えていた。そのため、ウェスティングハウスは1886年、“交流”式の実演会にエジソンを招待したが、さあ、そこでエジソンは・・・？

他方、エジソンが起こした会社「エジソン・エレクトリック」に採用されたオーストリア移民の発明家テスラも、“交流”方式の方が効率的だと提案したが、エジソンはそれを一蹴。そこで始まったのが、電流戦争だ。

■□■発明には特許が大切！投資家探しも不可欠！■□■

2020年6月19日の大阪地裁への提訴で始まった、本庶佑VS小野薬品工業の、特許を巡って226億円余りと遅延損害金を求める訴訟にはびっくりだが、発明には特許が大切だ。他方、発明には天才発明家の知恵と共に莫大なカネが必要だから、それを提供する投資家探しも不可欠だ。2016年1月のトランプ大統領の登場以降、米中の貿易戦争が激化し、その中で、ファーウェイ（華為）の特許問題が大きな話題を呼んでいるが、本作ではエジソンの資金援助をしていた実業家JPモルガン（マシュー・マクファディン）の投資家の在り方に注目！

ソフトバンクグループの総帥である孫正義氏は近時投資の失敗で注目されているが、当時のモルガンはどんな目で投資先を決めていたの？また、エジソンは単純な発明家だけではなく、実業家としての面も持っていたが、ウェスティングハウスは、発明家の方と実業家の方がフィフティフィフティ？そのため、当初エジソンの良き助手だったテスラは、エジソンから解雇された後は、ウェスティングハウスと協力関係を結ぶことに。

電流戦争が激しさを増す中、1893年のシカゴ万博で開催された史上最大の電気ショーへの出展をエジソンの直流方式でやるか、それともウェスティングハウスの交流方式でやるかが焦点になった。しかし、その裏では、訴訟や駆け引き、さらに脅迫や裏切り等がいっぱい。さらに、映画を観ていればよくわかるように、エジソンの妻メアリー・エジソン（タペンス・ミドルトン）と、ウェスティングハウスの妻マーガリート・ウェスティングハウス（キャサリン・ウォーターストン）を含む様々な人物もそれぞれの役割を果たすので、それにも注目！

■□■交流は危険？ナイアガラの滝から発電！■□■

もし、クレオパトラの鼻がもう少し低かったら……。そんな「歴史上のIf」の議論

は面白いが、もし電流戦争でエジソンが主張したように、交流は危険だとして、直流が採用されていれば？

現実には1893年のシカゴ万博では交流電流が採用され、同年のナイアガラの滝の発電事業でもテスラの二相交流モーターが採用された。そして1900年からは、巨大な無線送電塔「世界システム」の建設が進められた。その後の展開は私にはよくわからないが、それを見る限り多分電流戦争での交流の採用は正解だったのだろう。すると、当時のエジソンのあの主張は間違いだったの？本作はそこらあたりの評価は下していない。しかし、本作では「エジソンの発明」としてよく知られている、「キネトフォン」を再三紹介してくれるので、それに注目！

現実には、この面でもエジソンのキネトフォンはフランスのルミエールのシネマトグラフに敗北したわけだが、本作ではとにかく発明王エジソンのなんとも興味深いキャラ（＝人間味）をタップリ味わいたい。

2020（令和2）年6月26日記